

No.

01

草の根技術協力事業環境整備調査団（インド）

調査報告書

平成17年1月

独立行政法人国際協力機構
東京国際センター（JICA 東京）

JICA LIBRARY



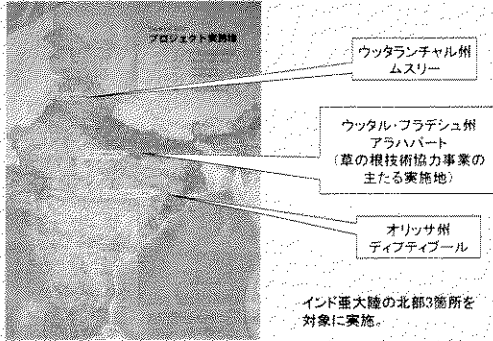
1178844[5]

東京セ

JR

05-02

1. プロジェクト対象地域



2. インド国内の移動手段(鉄道)



アジア学院の三浦PMのアドバイスにより、インド国内の移動は全て鉄道。

3. プロジェクト実施地訪問

アラハバート(1)
(C/P機関のアラハバート農業大学継続教育学部)



・アラハバート農業大学継続教育学部("AAI-DU, CCNFE")の外観(左)とスタッフ(右)
・校舎は草の根無償と日本の支援者の寄付金で建設された。

アラハバート(2)
モデル農村サイト (Chak Khwaja Ali村)



就学前幼児のための教室

・牛糞を乾燥させ、重ねて蒸で覆ったもの。
・牛糞は燃料・家の外壁に使い、肥料等には使われていない。(三浦PM談)



1178844[5]

アラハバート(3)
モデル農村サイト



・浄水を村の給水タンクから直接引いている(個人所有)

・村では女性の方が男性よりよく働く。(三浦PM談)

アラハバート(4)
モデル農村サイト



・村を流れる灌漑用水路
・植えられている作物はナス

・"AAI-DU CCNFE"のMr. Mishra
(村落コミュニティ開発部担当コーディネーター
アジア学院卒業生、右)と三浦PM(右から3人目)

・土壌表面が白色化している。表面のマルチングが行われていない。

アラハバート(5)



・"AAI-DU"のモデル農場。
土壌が白色化していない。

・Sangam Exps.の車窓から乾いた
ヒンドゥスタン平原を望む。
・中央の煙突は煉瓦炉

3. プロジェクト実施地訪問

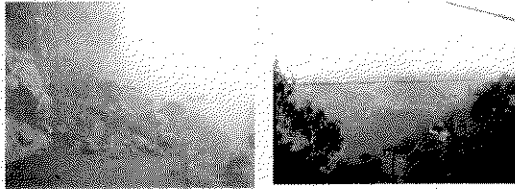
ムスリー(1)

- ・ Mussoorie Gramin Vikat Samiti(ムスリー民衆開発協会:MGVS)ムスリー地区における開発NGO。
- ・ 代表コーディネーターのMr. Sureshはアジア学院卒業生だが、本格的な有機農業プロジェクトの実施は今回が初めて。



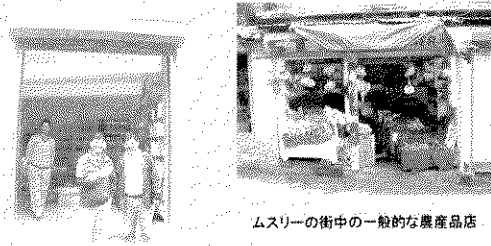
MGVSスタッフたち

ムスリー(2)



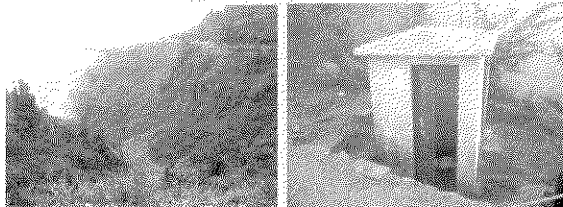
悪路(路肩崩落現場、結局プロジェクトサイトには行けなかった。) ・ムスリーの町 全景(晴ればヒマラヤ山脈とガンジス川源流が望める)
 ・ムスリーは観光地

ムスリー(3)



ムスリーの街中の一般的な農産品店
 ・ムスリーの町にある有機物農産品店
 (中央がMGVSのコーディネーターMr. Suresh(アジア学院卒業生))

ムスリー(4)



高度2300mの山間傾斜地の段々畑
 (大根などを栽培) NGO: MGVSが学校に設立したトイレ

ムスリー(5)



・MGVSの村落女性支援プログラム
 (カーペット作り)
 女性の家にはソーラーパネルと貯水タンクもあった。
 ・MGVSが発立支援した学校
 (現在は公立)

【目次】

・ 口絵写真（3枚）	
・ 目次	1 ページ
・ 用語集	2 ページ
1. 調査概要	3 ページ
2. 調査日程	5 ページ
3. 調査当該プロジェクトの概要および実施団体の概要	7 ページ
4. プロジェクト対象地域について（3箇所の比較図）	9 ページ
5. 調査結果（結論）	10 ページ
6. 調査項目および調査結果（対比表）	13 ページ
(1) 対アラハバート農業大学	
・ (1-1) 調査結果対比表	14 ページ
・ (1-2) Selection of Village to Implement JICA Project Activities: N. F. E. C., AAI-DU 211007 22-7-04（アジア学院およびアラハバート農業大学による村落調査結果）	24 ページ
(2) 対（ムスリー村落開発協会；MGVS）	
・ (1-1) 調査結果対比表	26 ページ
・ (1-2) Introduction of MVGS	34 ページ
・ (1-3) Annual Project Report 2003	36 ページ
(3) 対インド事務所／対日本大使館	46 ページ
(4) 対インド財務省経済局	48 ページ
7. 収集資料一覧	49 ページ
8. 面談者名簿	50 ページ

用語集

	名称・略称	略語の正式名称	訳語	内容
1	AAI-DU	Allahabad Agricultural Institute-Deemed University	アラハバート農業大学	アジア学院のカウンタパート NGO。みなし大学。本文中では“AAI-DU, CCNFE”と表記。
2	ARI	Asian Rural Institute	アジア学院	準学校法人アジア学院の英文名称・略称
3	CCNFE	College of Continuing and Non-Formal Education	継続教育学部	AAI-DU の一学部。本章の根案件の国内調整員の牧野一穂氏が学部長を勤める。本文中では“AAI-DU, CCNFE”と表記。
4	Clearance	-	了承取付	インド政府による国際協力事業の承認手続き過程を指す。草の根技協のクリアランス手続き終了には約半年かかると見込んだほうが良い。
5	DEA	Department of Economic Affaris	経済局	インド政府の援助窓口。有償、無償、技協（草の根技協含む）の全ての窓口。財務省 (Ministry of Finance) の一部局。
6	IAS	Indian Administration Service		インドの最高級行政職。
7	Marginal Farmers	-	小規模農民 (意訳)	アジア学院による本章の根案件の主たる裨益者層。1～2ha の農地を保有する農民をこのように定義している。
8	MGVS	Mussoorie Vikash Vikash Samiti	ムスリー村落開発協会	ムスリー地区における C/P NGO の名称。
9	Panchayat	-	村落自治会	インドにおける最小行政単位。
10	Scheduled Caste	-	指定カースト民	不可触民の憲法上の正式名称)。日本では Out Caste と呼称されることが多い。現地の発音では「シジュール・カースト」と呼ばれる。
11	State	-	州	強い自治権を有する。ちなみにアラハバート市のある Uttar Pradesh 州 (ウッタル・プラデシュ州) はインド最大の州であり、人口は約1億4千万人。

1. 調査概要

(1) 【調査実施の背景・経緯】

JICA 東京がインド国において実施する第1号草の根技術協力事業（パートナー型）として、準学校法人アジア学院（栃木県）の提案した「北インドの小規模農民のための持続可能な環境保全型複合農業の普及システムの構築と草の根パイロット事業プロジェクト」が2003年度に採択された。本案件は、北インド地方の貧困農民層の所得・生活向上を目的としたものであり、「草の根」制度の趣旨と合致していることからJICA 東京としても採択を推したものである。インド国政府了承取り付けが2004年5月末に了し、7月事業実施に向けて準備中である。

本案件は広大なインド亜大陸において1) ウッタール・プラデシュ州アラハバート、2) ウッタランチャル州ムスリー郡、3) オリッサ郡ライプール郡の3州に事業実施地が分散している。これらは地理・気候・風土が大きく違っているが、JICA としては現地状況を十分には把握できていないため、プロジェクト実施地を訪問調査し、C/P 機関、その体制および裨益地の状況などを十分に確認する必要がある。

についてはインド国に調査団を派遣し、現地関係機関や住民グループと協議、及び現地踏査を行い、事業方針、実施準備の状況、安全管理体制等の確認・把握を行う。

なお、インド国政府による草の根技協案件の了承（クリアランス）について膨大な時間がかかったことから、今回、調査団総括（JICA 東京連携促進チーム長）はJICA を代表して、同国政府援助窓口機関および日本国大使館に対し、制度趣旨説明を改めて行うとともに今後の案件が採択された際のインド政府の早期了承のための要請を行う。

(2) 【派遣目的】

1. 事業開始にあたり、先方実施機関および本邦 NGO と当該事業実施にかかる基本方針および方向性について協議する。
2. 日本大使館、JICA 事務所と市民参加協力事業に関する意見交換を行う。
3. インド政府 NGO 窓口機関との意見交換

(3) 【調査項目】

1. プロジェクトサイトを訪問し、事業実施体制を確認するとともにステークホルダーとの意見交換結果を踏まえ、今後の事業の方針・方向性を確認する。
2. 日本大使館、JICA 事務所との市民参加協力事業に関する意見交換

2-1. NGO 支援協力の方向性を説明するとともに当該事業についての情報共有を図る。

2-2. 安全管理に関する事務所見解をもとに、当該事業の実施体制を確認する。

3. NGO 援助窓口機関に対し、草の根技術協力事業制度および事業の特色について説明を行い、JICA の協力の方針・方向性について、理解してもらう。

(4) 【対象案件】

・北インドの小規模農民のための持続可能な環境保全型複合農業の普及システムの構築と草の根パイロット事業プロジェクト」

・事業提案団体： 準学校法人アジア学院（栃木県那須塩原市）

(5) 【調査団の構成（団員）】

- | | | |
|--------------|-------|-----------------|
| 1. 総括 | 松本 淳 | JICA 東京連携促進チーム長 |
| 2. 技術協力（草の根） | 白井 宏明 | JICA 東京連携促進チーム |

2. 調査日程

	Date	Day	Time	Contents	Transpn.	Accom.
1	Jul. 22	Thu.	14:25pm	Leave Tokyo	(JL471)	
			19:40pm	Arrive at Delhi	Taxi (Sedan)	Delhi (The Oberoi Hotel)
2	Jul. 23	Fri.	09:30am	Meeting with JICA India Office Staff Members, Courtesy Visit To Embassy of Japan	Taxi (Sedan)	
			11:00am	Visit and Interview with Department of Economic Affairs (DEA), Ministry of Finance		
			15:00pm	15:00 Aga Khan Foundation India Office		
*			21:30pm	Leave New Delhi Station	Prayag Raj Exp. No. 2418	(Train)
3*	Jul. 24	Sat.	06:50am	Arrive at Allahabad Station		
			AM	Visit and Interview with Allahabad Agricultural Deem-University and its Continuing Education Dept.	Taxi (4WD)	Allahabad, UP (Hotel Kanha Shyam)
			PM	Observation at Rural Areas around Allahabad City		
4*	Jul. 25	Sun.		Observation at Rural Areas around Allahabad City	Taxi (4WD)	Allahabad,UP
5*	Jul.26	Mon.		1) Visit and Interview with Allahabad Agricultural Institute-Deemed University College of Continuing and Non-Formal Education 2) Observation at Rural Areas around Allahabad City	Taxi (4WD)	
			17:15pm	Leave Allahabad Station	Sangam Exp. No.4163	(Train)

6*	Jul. 27	Tue.	23:30pm	Arrive at Dehra Dun Station	Taxi (4WD, if available)	
				Stay at Dehra Dun		
7*	Jul. 28	Wed.	15:30pm	Arrive at Mussoorie		
				Observation at Mussoorie Project Sites, Interview with Local NGOs	Taxi (4WD, if available)	
			18:00pm	Leave Mussoorie	Taxi (4WD, if available)	
			20:55pm	Leave Dehra Dun Station	Kotdwara/ Dehradun Delhi Mussoorie Exp. 404)	(Train)
8*	Jul. 29	Thu.	07:00am	Arrive at Old Delhi Station	Taxi	Delhi
			10:00am	Debriefing to JICA India Office		
			15:00pm	Embassy of Japan (Mr. Akira Kido, Second Secretary)		
						Delhi (The Oberoi Hotel), Half Day Stay
			21:05pm	Leave Delhi	(JL472)	
9	Jul. 30	Fri.	08:30pm	Arrive at Narita		

*All observation at Allahabad & Mussoorie will be accompanied by Dr. Miura (Project Manager) & Dr. Makino (Project Coordinator) of Asian Rural Institute (ARI)

3. 調査当該プロジェクトの概要と実施団体の概要

1. 事業の概要

1. 対象国名 インド
2. 事業名 北インドの小規模農民のための持続可能な環境保全型複合農業の普及システムの構築と草の根パイロット事業プロジェクト
3. 事業の背景と必要性 自由化経済が推し進められる中で、インド農村地帯では、商業的
化学農業による土壌劣化、小規模農民の経済破綻、また自然環境の悪化が見られる。その問題の取り組みとして、持続可能な環境保全型農業システムの普及が、重要視されている。自由化の波に傷つきやすい小規模農民自立のために、特に必要と思われる。本件申請者・アジア学院及と現地のアラハバート農業大学継続教育学部は、協力し合いながら 30 年以上に渡ってインドの農村リーダーに持続可能な農業研修を行っている。が、現地でのその普及活動が、あまり進展していない。よって、両者の組織と現地 NGO が協力し、具体的な当農業普及システムの構築をすることは、継続的で且つ効果的な普及活動をする上で必要である。
4. 事業の目的 小規模農民のための地域循環型有畜複合農業普及システムの構築と、小規模農民によるパイロット農場の設立が目的である。
5. 対象地域 主となる地域はアラハバート地区(ウツタル・プラデシュ州)、その他にパイロット農場を設立する地域、ムスリー地区(ウツタル・アンチャル州)、デプティプール地区(オリッサ州)の合計 3 箇所である。
6. 受益者層
(ターゲットグループ) 上記の地域に住む小規模農民(原則として農地所有が約 1ha 以下の農民)
7. 期待される成果及び指標 1) アラハバート農業大学継続学部到有畜複合農業研修農場が設立され、当学部が、当プロジェクトに協力する NGO スタッフ、及び小規模農民(リーダー各)の研修プログラムを実施する。初年度 12 名予定。
2) 小規模農民による環境保全型有畜複合農業パイロット農場が対称地域にそれぞれ 3 箇所、合計 12 箇所できる。
3) 現地 NGO、アラハバート農業大学継続学部、パイロット農場主が協力し、その普及のための、研修、セミナー、普及活動

を行う。それぞれの地域で約 400 人以上の小規模農民がこの普及プログラムに参加する。

- 8. 実施期間 2004 年 7 月～2007 年 6 月(3 年間)
- 9. 事業費 総額:49,983,650 円
第一年次契約:16,987,350 円
- 10. 事業の実施体制 アジア学院が、プロジェクトマネージャー、調整員、専門家の現地派遣と日本国内研修の調整を担当する。また、現地側では、アラハバート農業大学の継続教育学部とその職員が現地側のカウンターパートとして本プロジェクトの遂行に当たる。当大学は、所有する当学部の施設(寮、農場)等及び人的資源を提供する。パイロット農場開設と現地での小規模農民のセミナー、普及に関しては、インドに在住するアジア学院卒業生とアラハバート農業大学卒業生が代表する現地 NGO 協力を得て実行する。

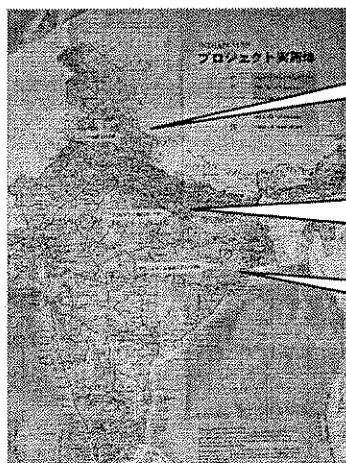
II. 実施団体の概要

- 1. 団体名 準学校法人 アジア学院(栃木県那須塩原市槻沢 442-1)
- 2. 活動内容 有機農業を中心としたアジア・アフリカの農村リーダー養成と、フィリピン、ミャンマー、インドでの農村開発協力
- 3. 対象国との関係、協力実績 アジア学院は、1973 年より 150 名以上のインド人農村・農業開発員の研修を受け入れてきた。また、本プロジェクトの事業地であるアラハバート農業大学継続学部は、過去 30 年以上、お互いに人材育成や農村開発のために情報交換、職員の相互研修等を行ってきた。

4. プロジェクト対象地域について (3 箇所の比較図)

プロジェクト対象地域 (インド北部3箇所)

プロジェクト サイト	地理的特徴	C/P NGO 名称	備考
アラハバート (ウ タール・プラデシュ 州/ Allahabad, Uttar Pradesh)	半乾燥地域、ヒン ドゥスタン平原 の中央に位置す る。ガンジス川、 ヤムナ川両河川 合流地点。そのた め、平原の他地域 に比べ、淡水資源 は豊富であり、灌 漑用水等も盛ん である。	アラハバート農業大 学継続教育学部 (Allahabad Agriculture Institute - Deemed University, College of Continuing and Non Formal Education)	アジア学院の主た る CP 機関、学部長 は現地調整員の牧 野一穂氏。U.P 州は 人口は1億4千万人 を有すインド最大 の州。
ムスリー (ウッタラ ンチャル州/ Mussoorie, Uttranchal State)	高度 2,000m~2,300m ヒマラヤ山脈西 部高山地帯	ムスリー村落開発協 会 (MGVS: Mussoorie Gramin Vikas Samiti)	イギリス人が開発 した山岳観光地帯。 外国人住民も多数 おり、市街地では英 語も通じる。
ディプティプール (オリッサ州/ Diputibur, Orissa State)	亜熱帯地域、山岳 少数民族居住地 域	西ウツカル農業セン ター (West Utkal Agricultural Centre)	今回未調査



ムスリー (ウッタランチャル州)

アラハバート (ウタール・プラデシュ州)
(草の根技術協力事業の主たる実施地)

ディプティプール (オリッサ州)

5. 調査結果（総括）

1. 総論

1) インドは日本国内で想像する以上に多様性を持った社会であり、たとえ日本的考え方による活動についても、それを受け入れ、実践するグループが存在することを確認した。

2) アジア学院（ARI）とアラハバート農業大学継続教育学部（“AAI-DE, CCNFE”）は30年あまりに渡る人的交流、また同学部においてNGO指導者や女性を含む農民に対する各種研修プログラムを実施してきた延長線上に本プロジェクトを位置づけており、プロジェクト目標についても十分に妥当であることを確認した。

3) ただし、限られた現金収入に頼る対象地域の農家は、当然ながら、短期間での生産量の増加を期待しているのに対し、中長期的観点から安定した生産を目的とする本プロジェクトの趣旨を実践していくためには参加型アプローチ等を通じ相応の時間をかけて対処していく必要があると考えられる。

4) プロジェクト実施地が広大なインド国内の3箇所に分かれており、アラハバート以外でのプロジェクト運営には相当な努力が必要である。

5) アジア学院はNGO活動の長い経験を持つものの、草の根技術協力事業を実施するのは今回初めてであり、経理処理のみならず、プロジェクトの実施方法についてもJICAからの継続的なコンサルテーションが必要である。JICA東京からも積極的なコンタクトを行うが、インド事務所におかれても随時情報交換をして頂くことを依頼した。

2. 各団体インタビュー・プロジェクトサイト視察結果

1) 「JICAインド事務所」

- 膨大な貧困層が存在するインドにおいて、NGOとの連携事業の意義は大きい。
- インド国内のNGOからの支援要請は日常数多くあり、一方、日本のNGOでもインドで活動中、あるいは活動したいと考えている団体も多数あると承知している。今年の9月にNGO-JICAジャパンデスク（NJJD）をインド事務所が所内に開設することもあり、同事務所としては両国NGOのマッチングを行っていきたい。
- インド政府の認証（クリアランス）は非常に時間がかかる。基本的に外国の援助に対し、徹底した照会を行っていく方針は今後も変わらない模様。同政

府は「人間の安全保障」という観点による援助は受け入れない方針（人権外交による国政干渉を危惧している模様）。

2) DEA (Department of Economic Affairs, Ministry of Finance : 財務省 経済局)

- JPP (JICA Partnership Program)については一定の理解を示したが同時に定期的なモニタリング報告を求めると述べた。なお、DEAはインド側CPのFCR (Foreign Contribution Registration : 外国援助登録)の取得に固執するところがあり、本プロジェクトのCP機関について、すでにFCRの取得が確認されたCCNE以外のMGVS (Mussoorie Gramin Vikash Samiti)、オリッサ州NGO (West Utkal Agricultural Centre)のFCRの取得について確認を求められた。

3) 「アガ・カーン財団」

- 同財団はイスラム教をベースとして、主にFunding Agencyとしての機能を果たしているが、非イスラム社会にも協力を行っている。すでに30年以上インドで活動しており、インド国内のNGOとの連携を通して、開発支援事業を実施している。事業実施期間は特に定めていないが、10年単位で1つの事業を継続して実施していることが多い。
- 大規模な事業については同財団もインド政府の認証を受けており、地方政府の関与も重要な要素と考えている、とのことである。
- なお同財団はJICAインド事務所との連携により開発福祉支援事業(CEP)にてグジャラート州の衛生改善事業を実施しており、今後もJICAインド事務所との連携を希望している。また、東京事務所の設置も検討はしている由。

4) 「アラハバート農業大学継続教育学部(“AAI-DE, CCNFE”)」

- 今回新たに、草の根技術協力事業によってより実践的な内容とするためのモデル農家・農村の選定を行うこととしている。本調査団は3つのモデル農村の視察を行った。
- “AAI-DE, CCNFE”は従来の活動として女性のエンパワーメント、子供の教育(ノンフォーマルエデュケーション)、衛生教育などに力を入れている。これらの活動は本プロジェクトの主たる活動ではないものの、農村・農民のエンパワーメントにおいて重要である。今回の視察において、“AAI-DE, CCNFE”のこれらの活動が複合農業システムの構築と効果的に連携できることを確認した。
- 三浦PMは農村における実質的働き手である女性への働きかけや研修機会

の提供を強調している。

- 本事業の主眼点の一つである有機農業の導入という点については、“AAI-DE, CCNFE “側もその効果を十分に認めているものの、例えば牛糞の農地への施肥利用など、農家の理解と意欲を引き出す必要があり、相応の時間が必要と考えられる。
- 対象地域での視察においても、土壌の塩害防止のための草本によるマルチング等がなされていないため、土壌の白色化等が見られたが、農家は適切な対策等を取っていない模様であった。
- “AAI-DE, CCNFE “の農村開発CPである Mr. Mishra (アジア学院卒業生) はこれまで試行錯誤しつつ農家に対して指導をしてきたが、やや停滞していた模様である。今回の草の根技術協力によって活動を再構築したいとのことであった。
- アラハバート農業大学に建設予定のモデル農場予定地を視察したところ、緑肥の利用により土壌も黒色で豊かであった。また敷地も広大であり、栃木県のアジア学院と同様の家畜舎(糞尿を肥料として採取する)の建設にも支障がなさそうであった。

5) 「アラハバートのプロジェクトサイト」

- アラハバートではモデル農村3箇所の選定を既に終えており、ベースラインとしての現状把握はできている。それぞれが住民・女性の組織化、収入などで違いがあり、それぞれモデルとしての特色がある。

6) 「ムスリー」

- ムスリーでのCPのNGOであるMGVSは従来、農業を主な対象としてこなかったこともあり、本プロジェクトによる活動は、今後新たに構築していく必要がある。
- ただし、MGVSは女性スタッフを多く採用し、女性住民への働きかけ(保健衛生教育や収入向上手段としてのカーペット作り等)を行い、ジェンダー配慮について高く評価できる。なお、同NGOのコーディネーターの Mr. Singh はアジア学院の卒業生。
- 本地域は観光地に面しており、マーケティングという観点からは有機農業は農産物のセールスポイントとなりうる可能性が十分にあり、三浦PMは生産物の多様性を含めて、対象農家への指導を行う旨、述べていた。

- ただしMGVS事務所からは一番近い対象地域でも車で山岳地帯を1時間以上かけてアクセスする必要がある。当調査団も土砂崩れのため、対象地域を訪問することはできなかった。当地の治安は良いが、アクセス面での安全に留意する必要がある。

以 上

6. 調査項目および調査結果（対比表）

（1）対アラハバート農業大学

- ・ （1-1）調査結果対比表
- ・ （1-2）Selection of Village to Implement JICA Project Activities: N. F. E. C., AAI-DU 211007 22-7-04（アジア学院およびアラハバート農業大学による村落調査結果）
- ・ （1-3）Annual Report of College of Continuing and Non-Formal Education (July 2003 - June 2004) アラハバート農業大学継続教育学部年報

（2）対（ムスリー村落開発協会；MGVS）

- ・ （1-1）調査結果対比表
- ・ （1-2）Introduction of MVGS
- ・ （1-3）Annual Project Report 2003

（3）対インド事務所／対日本大使館

（4）対インド財務省経済局

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」 2004年8月5日 (木)
 対アラハバート農業大学(Allahabad Agriculture Institute - Deemed University: AAI-DU) JICA東京
 継続教育学部(College of Continuing and Non Formal Education: CCNFE) 連携促進チーム
 (松本、白井)

◆ 「北インドの小規模農民のための持続可能な環境民全型複合農業の普及システムの構築と草の根パイロット事業プロジェクト」 (実施団体: 準学校法人アジア学院/事業実施: 2004. 7~2007. 6)

調査項目	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
1	制度に関する調査		
1-1	JICAとの連携の 効果	<p>現状/問題認識 実施団体のアジア学院はこれまでアラハバート農業大学とともに、約30年間、共同で北インド小規模農民への支援を実施中である。この間草の根無償などの支援も受けたこと、今回が初めて実施団体はJICAと連携をすることを決めた。</p>	<p>【中央政府】 →定期的モニタリング報告を求めているもの、事業実施への介入等はず考えられない。 【州政府】 →DEAから事前照会があった筈だが、州政府担当者がどのよう回答したかは不明。 【現地村落】 →インドには最小行政単位としてPanchayat (自治会) という制度がある。モデル農村におけるパイロット農場の運営については、現地CPNGOがこれらPanchayatと適切な連携(研修参加者の選定など)を取る必要がある。</p>
	<p>JICAと連携することへの「ア」農大の期待は何か</p> <p>JICAと連携すること「ア」農大の懸念は何か</p> <p>JICAに対する要望はあるか</p>	<p>JICAとの連携前と比較し、中央/地方行政との関わりで、違いが生じたか</p> <p>アジア学院「ア」農大の事業に対するオナーシップに変化が生じるか</p> <p>JICAの他スキームとの連携/組み合わせの可能性はあるか</p>	<p>【中央政府】 →定期的モニタリング報告を求めているもの、事業実施への介入等はず考えられない。 【州政府】 →DEAから事前照会があった筈だが、州政府担当者がどのよう回答したかは不明。 【現地村落】 →インドには最小行政単位としてPanchayat (自治会) という制度がある。モデル農村におけるパイロット農場の運営については、現地CPNGOがこれらPanchayatと適切な連携(研修参加者の選定など)を取る必要がある。</p> <p>「ア」農業大学継続教育学部は従来から主体的に村落開発に従事しており、JICAとの連携によって「著しい依存性」が発生するとは思われない。</p> <p>現時点ではJICAスキームとの連携予定はなし。しかし、「AAI-DE, CCNFE」は大使館の草の根無償による支援を過去数度受けている。</p>

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」 2004年8月5日 (木)
 対アラハバート農業大学 (Allahabad Agriculture Institute - Deemed University: AAI-DU) JICA東京
 継続教育学部 (College of Continuing and Non Formal Education: CCNFE) 連携促進子チーム
 (松本、白井)

1.

1-2	主体性 (C/P) 機関 のアラハバート連 携バランス)	元アジア学院講師の牧野一穂氏が「ア」大学継続教育学部長 (本草の根案件でも現地調査員を兼ねる) が同大学と連携しながらプロジェクトの農民組織や現地NGOと連携しており、本事業開始前から既に信頼関係が存在している。	アジア学院と「ア」農大がそれぞれ役割を認識しているか ・「ア」農大及び現地NGO、農民団体の間でそれぞれの主体性が保たれているか (重要!) ・アジア学院と「ア」農大の間のモニタリング体制と予算管理の確認	「ア」大学継続教育学部はアジア学院と個別した現地機関としての意識があるか ・日本のプロジェクトとして認識されているか ・プロジェクト・マネージャは帰国時に十分な報告をすするに十分な関係度、事業内容についているか	インド国内のNGO (準大学) というアジア学院とは独立した組織のスタッフとして、主体的に活動している。 「AAI-DE, CCNFE」スタッフはJICAとの連携事業であることを十分に理解していた。 ・本プロジェクトの専用口座を開設する予定であることを三浦PMに確認。またアジア学院卒業の日本人スタッフ川口景子氏を経理専任スタッフとして「AAI-DE, CCNFE」に常駐させている。
1-3	実施体制と治安	現時点では日本人スタッフはサイトに入ることができる。	アジア学院案件に係る安全管理基本方針の確認 ・現在の治安状況における実施体制とその問題点の確認 ・今後の実施体制の方向性の確認	オリッサ州デブテイブールにおいて山岳少数民族の反政府活動に十分留意する必要がある旨、指摘されている。	アラハバート地域については、特段留意すべき治安問題は無い。

2 プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)		調査の結果	
調査項目	現状/問題認識	調査のポイント	調査結果
2-1 1. Relevance (妥当性) 《現状検証》	<p>出所【提案団体作成による要約書 3. 事業の背景と必要性】</p> <p>1. 自由化経済が推し進められる中で、インド農村地帯では、商業的農業による土壌劣化、小規模農民の経済破綻、また自然環境の悪化が見られる。</p> <p>2. 上記1. の解決策として、持続可能な環境保全型農業システムの普及がインドで重要視されている。</p> <p>3. 上記システムは自由化の波に傷つきやすい小規模農民自立のため、特に必要である。</p> <p>4. アジア学院とアラハバート農業大学継続教育学部は協力し合いながら30年以上に渡ってインドの農村リダーに持続可能な農業研修を行っているものの、現地での普及行動があまり進展していない。</p> <p>5. 以上のことから、両者の組織と現地NGOが協力し、具体的な農業普及システムの構築をすることは、継続的で且つ効果的な普及活動をする上で必要である。</p>	<p>現地調査項目 活動実施状況、プロジェクト運営体制、関係者のプロジェクトに関係する意識、住民と組合の関係、住民の関わり方や変化</p> <p>・農村、マーケット等での現況確認</p> <p>・環境保全型農業システムの普及状況の確認 (視察予定地周辺で普及システムの無い地域)</p> <p>4. 過去の事業実績 (普及活動が活発化していないことについて) を「ア」農大にて聞き取り調査を行う。</p>	<p>・対象農村の畑では不適切な土壌管理による土壌塩化減少等も見られた。 ・マーケット視察は出来なかった。</p> <p>“AAI-DU, CCNFE” から車で1時間前後の3村落をモデル農村としており、今後のシステム普及については十分にサポートを受けられる。</p> <p>“AAI-DU, CCNFE” は既に有機農業研修、村落開発研修、環境管理研修、農村女性研修などのプロジェクト実施している。今後の「基本部分」は既に完成している。</p>

2 プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)		現地調査項目	調査のポイント	調査結果
2-2	調査項目 Effectiveness (有効性) 《予測検証》 検証 【提案団体作成によるプロジェクト目標 (OUTCOME)】 出所【事業提案書 年間スケジュールおよびPDM】 1. 「ア」農業大学継続教育学部を中心に地域循環型有畜複合農業普及システムのモデルが北インドに確立される。 2. その普及に関わる人材や後継者が養成される。 3. パイロット農場を中心に対象地域のNGOが協力し、北インドの小規模農民のための普及活動 (セミナー、個別訪問等) を継続させ、本件終了後も、小規模農民の自立発展を促す。	1. 「ア」農大による小規模農民向け研修プログラム、普及戦略およびモデル農場の確認 2. 「ア」農大による普及員養成プログラム 3. アラハバートおよびムスリーアの農民団体/ローカルNGOによる普及活動	対象地の問題・受益者とのニーズを適切に把握しているか。 同地域での他事業との整合性	既に3つの村落をモデル農場候補地として選定しており、ベースラインについての確認は行われている。
2-3	3. Efficiency (効率性) 《現状 (予測) 検証》 【提案団体による成果および活動】 出所【事業提案書 年間スケジュールおよびPDM】 Output 1. 【草の根農業改良普及員の養成】 1-1 対象地域を訪問しパイロット農場の選定と草の根農業改良普及員をそれぞれ2名を選定。対象地域の協力者は、対象地域内のNGO組織の代表者である。	アジア学院・「ア」農大、Mussoorie Gramin Vikash Samiti (MGVS) が想定している改良普及員への聞き取り調査。	アジア学院が過去30年、「ア」農業大学と農村研修活動を実施してきた実績を踏まえ、普及率の予測を立てる。	インタビューは出来なかったが、「AAI-DU, CCNFE」にて改良普及員を選定中である。過去、同NGOでの研修を受けた女性を含む農民が各村落において、その中から普及員が選定される。

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」 2004年8月5日 (木)
 対アラハバート農業大学(Allahabad Agriculture Institute - Deemed University: AAI-DU) JICA東京
 継続教育学部(College of Continuing and Non Formal Education: CCNFE) 連携促進チーム
 (松本、白井)

2	プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	調査項目	調査の結果
	現状/問題認識 1-2 草の根農業改良普及員のための基礎的研修プログラムをアラハバート農業大学の有畜複合農業センターで行う。 1-3 海外で草の根農業改良普及員及び研修プログラムの関係するスタッフの研修を行う。 1-4 草の根農業改良普及員に対する専門家、及びパイロット農場担当者は、現場で、モニタリングと同時に助言活動、技術指導を現場でおこなう。 1-5 普及員をアラハバート農業大学の複合農業センターに招き、普及の問題等の解決のための研修、及び活動の中間報告・評価を行う。 1-6 普及員、関係スタッフ、専門家を招聘し、プロジェクトの最終評価をアラハバート農業大学の複合農業センターで行う。 Output 2. 【草の根農業関係普及員を中心に農民組織またはNGOによる地域循環型有畜複合農業パイロット農場が、アラハバート一箇所設立され、地元農民組織、またはNGOにより運営される。】	現地調査項目 アジア学院・「ア」農大が従来実施してきた基礎的研修内容の確認 (本邦・アジア学院(栃木県)で実施している研修内容の情報収集(帰国後) (今回調査対象外) (今回調査対象外) (今回調査対象外)	「AAI-DU, CCNFE」のスタッフへのインタビューと収集資料により、案件に予定されている研修内容の資格は既存の研修コースにて行われていることを確認した。 (8/5現在、未調整)
		パイロット農場予定地の選定方法の確認	3つの農村(Chak Khwaja Ali, Boongi, Seemra)を選定。住民組織(女性グループなど)等の結成状況には差異がある。

2	プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	調査項目	調査の結果
	現況/問題認識	現地調査項目 (当該地域NGOへの聞き取り調査)	調査結果 ・ "AAI-DU, CCNFE" のスタッフは参加型手法を用いて村落・農業開発を行っている。
	2-2 パイロット農場の施設、運営、システム、形態について、参加型手法で小規模農民と一緒に話し合い、決める。	(今回調査対象外)	
	2-3 小規模農民の参加を促し、地元農民組織によるパイロット農場の構築を行う。	(今回調査対象外)	
	2-4 専門家によるパイロット農場の基盤整備、自立的運営に関して助言活動をする。	アジア学院から派遣されるPM, PC, 短期専門家の活動内容について予測する。	アジア学院から派遣されるPM, PC, 短期専門家の活動内容について予測する。
	Output 3. 【当パイロット農場を中心に、対象地域内の小規模農民が、当該農場の構築過程に参加しながら、地域循環型複合農業を実践的に学ぶ、実践することができるようになる。】		三浦PM、牧野PCいずれも申し分ない。特に牧野氏は"AAI-DU, CCNFE"の学部長という立場と在インド30年の経験から、助言者としての強い立場は揺るがない。
	3-1 パイロット農場を中心に、対象地域内の小規模農民を対象とした地域循環型複合農業のセミナーを行う。毎年、箇所、少なくとも小規模農民を50人以上合計200人以上参加する。地域循環型有畜複合農業の概念、基礎的な技術を学ぶ。	(今回調査対象外)	
	3-2 普及員は、セミナーに参加した小規模農民に対し実践する意志のある者のために、個別訪問をし、技術指導や助言活動を行う。また、必要に応じて、小規模グループの研修会を適宜行う。	(今回調査対象外)	

プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
2-5	4. Impact (インパクト) 《予測検証》	<p>現状/問題認識</p> <p>3-3 小規模農民を組織化し、農産加工の実習や、販売等について検討し、農産物の独自な販売について話し合いをし、その可能性について模索する。</p> <p>3-4 小規模農民、農業改良普及員、技術専門家と一緒に普及型システムや技術について、参加型手法を用いて評価をする。その問題解決について模索する。</p> <p>【提案団体による上位目標】 出所【事業提案書 年間スケジュールおよびPDM】</p> <p>1. 北インド農村部に、小規模農民のための地域循環型有畜複合農業普及システムが確立される。</p> <p>2. 地域残渣、地域資源を有効利用することにより自然環境が改善される。</p>	<p>“AAI-DU, CCNFE”が小規模農民の収入向上に留意していることは確認した。しかし、有機農産物に関するマーケティングについての対策（研修実施）などは不十分。</p>
		<p>【提案団体による指標の妥当性確認】 プロジェクト目標・活動をもとにインパクト(上位目標)を想定する。</p> <p>1-1 草の根農業改良普及員による有畜複合農業の継続的な普及活動</p> <p>1-2 パイロット農場の地元農民組織やNGOによる運営の継続</p>	<p>“AAI-DU, CCNFE”から3モデル農村は近接しており、継続的普及支援は十分に可能である。</p> <p>・アラハバートの3モデル農村はいずれも“AAI-DU, CCNFE”との10年以上の連携実績がある。パイロット農場の設立はこれからだが、住民組織が既存にある2村落については、運営にかかるとは考えられない。</p> <p>・ただし、ポンプ・灌漑施設の維持管理については、農民が個人で行っている方がうまくいっているという現状もあり、農民の組織化については農民への適切な働きかけが必要。</p> <p>モデル農村でも牛糞・尿はまた肥料として利用されていない。鶏糞の理由も少なく、糞・草のマルチ利用はまだまだ少ない。</p> <p>現地（州政府等）の統計資料は入手できなかった。</p>
		<p>2-1 地域資源や地域残渣の有効利用の増加</p> <p>2-2 農業や化学肥料使用量の減少</p>	

プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	調査項目	現状/問題認識	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
2-4	5. Sustainability (自立発展性) 《予測検証》 *自立発展性(効果の持続性)を担保するためには、プロジェクトの内容によって異なるので、それを見極めるところから調査を行う。	3. 本プロジェクトを継続するための農業改良普及員、地域農村リーダーや農業後継者が育つ。 4. 農業技術、マーケティング改善のための小規模農民の組織が強化され、農業収入が安定する。	2-3 家畜糞尿の畑への還元増加 3-1 プロジェクト継続に関わるNGO農業改良普及員や農業リーダーの数。 3-2 小規模農民の循環型有畜複合農業実践者の家戸数とその農業面積の増加	モデル農村でも牛糞・尿はまだ肥料として利用されていない、意識改革には時間がかかろう。 今回未確認。 今回未確認。	マーケティング等の項目の詳細についての記載が見受けられないため、状況について確認する。
	1. 政策・制度面 1-2. 有機農法等に関するインド国、各州政府の関連規制、法制度は整備されているか/整備される予定か 1-3. 3州のパイロット・サイトを対象とするプロジェクトでは、その後の広がりを支援する取り組みが担保されているか 2. 組織・財政面 2-1. 事業終了後も、効果をあげていくための活動を実施する組織能力が「ア」農業大学、MUJS、West Utkal Agricultural Centre (WUAC)の3機関にあるか	3年間で地域住民と「地方行政」がどの程度の役割を担っている必要があるか。また、その度合いを測る指標。	“AAI-DU, CCNFE”は州政府など行政機関と常時連携しているものではない。中央政府担当省庁では化学肥料、有毒薬品等の規制を行っている模様だが、州政府の対策については未確認。 現時点では担保されていない。ただし、“AAI-DU, CCNFE”は研修事業をとおしてインド国内の多数のNGOと連携があり、このネットワークを經由した広がりは期待できる。	“AAI-DU, CCNFE”は過去も研修事業を実施してきている。施設・人材については十分にあるため、資金調達が事業終了後も最大の課題となる。	

2 プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
現状/問題認識 2-2. プロジェクトを開始する前から、3機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか 2-3. 経常経費を含む予算の確保は行われているか。 3. 技術面 3-1. プロジェクトで用いられる技術移転の手法は受容されるか(技術レベル、社会的・慣習的要因など)	現地調査項目 ・ヒンズー教の影響により、牛糞の利用はインドにおいては極めて難しい旨、アジア学院から指摘されている。		確保されている。 未確認。
3-2. プロジェクトで導入予定の維持管理計画は妥当か 3-3. 普及のメカニズムがどのようなプロジェクトに取り込まれているか			・ヒンズー教の影響もあると思われるが、牛糞の肥料への転用は時間がかかる(現在はもっぱら燃料、家屋の漆喰として用いられている)。 ・また、他の家畜・人間の糞尿については利用していないため、「肥料としての有効利用」への意識転換にも時間がかかるだろう。 ・そのため、高価であっても一定の効果の出る化学肥料への依存は短期的には改善されない。 ・三浦PM、牧野PCいずれも上記の現状について認識しており、時間をかけて有畜複合農業の導入を行う予定している。 特段、高価な機材は四輪駆動車を除けばない。4WDもインド国産のTATA社製を購入予定であり、メンテナンヌ等は問題ないと思料する。 アラハバードの地では既にモデル村落の選定が終わり、また“AAI-DU, CCNFE”による協力実績が既にあることから3年の協力期間中に導入は村民への有畜複合農業の普及の可能性はある。モデル村落への働きかけは継続的に確認したい。

プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う)	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
プロジェクトに関するモニタリング (JICA評価5項目に基づいて確認調査を行う) 現状/問題認識	3-4. 3NGO (特に「ア」農大) が普及のメカニズムを維持できる可能性は、どの程度あるか 3-5. パイロット・サイトを対象とする案件では、他へ普及できる技術であるか 4. 社会・文化・環境面 4-1. 女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか 4-2. 環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか 5. その他 自立発展性を阻害するその他の要因はあるか	調査のポイント	従来から「AAI-DU, CCNFE」の中で研修コースを実施しており、この枠組みの維持は十分に可能。 技術的には十分に可能な適正技術 (栃木のアジア学院にて既に実証済み)。 農作業における女性の労働量は男性のそれと比べ、はるかに多い。「AAI-DU, CCNFE」はジェンダー対策 (農村女性研修) には力を入れており、女性への配慮は期待できる。 ・環境への配慮 (有畜複合農業の普及システム) の確立) 自体がプロジェクトの目標である。むしろ、従来の農産物生産方法 (化学肥料の利用による農産物の育成) が変更されることによる (一時的) 所得減少の方が問題である。 ・そのため、「AAI-DU, CCNFE」が有畜複合農業の経済的、環境的利益を如何に予見しているかが課題である。 1) 技術的には、ヒンズー教の影響によると思われる、家畜の糞尿利用への忌避意識の変化を促すことが課題。 2) ヒンズー教徒間のカースト問題、イスラム教徒の宗派の影響等があるいは自立発展性を阻害する恐れはある。しかし、モデル農村ではイスラム教徒も共生している由。

Selection of Village to Implement JICA Project Activities: N.F.E.C., AAI-DU 211007 22-7-04

Sr. No.	Village Name	No. of Household	Population	Primary Schools	No. of Students	Teacher	Attend-ant	No. of Yr. with RCDSC	Women's Group	Agri. Main Products	Other Activities
1	Chak Khwaja Ali	60	360	Yes	65	2	1	10	Nil	Rice, Wheat, Pea, Mustard, Sugarcane, Tomato, Eggplants, Chilly, Okura, Cucubits, Radish, Corriandar, etc.	Farmers Training, Training Tours, Demonstration, Plant Protection, Weed Control, Seed Supply, Tree Plantation
2	Boongi	120	720	Yes	40	1	1	18	Women's Club for 5 years, Training at the CCNFE-AAI for 3 years, Women's tours.	Rice, Wheat, Pea, Mustard, Sugarcane, Tomato, Eggplants, Chilly, Okura, Cucubits, Radish, Corriandar, Cowpeas, Carrot, etc.	Farmers Training, Training Tours, Demonstration, Plant Protection, Weed Control, Seed Supply, Tree Plantation
3	Seemra	250	1500	Yes	45	1	1	18	Women's Club for 8 years, Training at the CCNFE-AAI Women's Club for 5 years, Training at the CCNFE-AAI for 3 years, Women's tours	Rice, Wheat, Pea, Mustard, Sugarcane, Tomato, Eggplants, Chilly, Okura, Cucubits, Radish, Corriandar, Cowpeas, Carrot, etc.	Farmers Training, Training Tours, Demonstration, Plant Protection, Weed Control, Seed Supply, Tree Plantation
<p>Reasons for selection of three target villages for Sustainable Agricultural Pilot Project by RCDSC</p> <p>1 Most Farmers are marginal Farmers with small land-holding.</p> <p>2 Irrigation facilities are available for agricultural activities</p> <p>3 Farmers are self-efforted for crop and vegetable production but not success up to desired level.</p> <p>4 Farmers of poor background and limited resources, cannot apply required input for crops and vegetable production.</p> <p>5 Needy people to be supported for development</p> <p>6 Whole family economy is based on agriculture, no other source to earn the income.</p> <p>7 Full time employed for their farm activities. So, they are totally dependent on the activities.</p> <p>8 Close distance from our institute. It is about 12-14km.</p> <p>9 Interested and efforted to adopt any new programme for their development.</p>											

Selection of Pilot Farmers in the Target Villages	
1	Villagers who have concern and promise to practice low-input and less chemical farming.
2	Villagers who have concern over and promise to utilize more organic fertilizers
3	Villagers who have concern over more diversity of cropping system. At least they promise us to plant 10 different kinds of vegetables and plant
4	Villagers who have more concern over use of more local resources around their community.
5	Villagers who have concern more about village industry such as food processing and other income generation activities.
6	Villagers who have concern more about alternative marketing system, e.g., direct marketing by group of farmers and contract marketing etc.
7	Household heads who allow their wives and daughters to take part in the program
8	Households who actively participate the training and activities of the program
9	Villagers who are willing to cooperate the activities of the program.

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

◆ 「北インドの小規模農民のための持続可能な環境保全型複合農業の普及システム構築と草の根パイロット事業プロジェクト」 (実施団体: 雄略学院アジア学院/事業実施: 2004.7~2007.6)

1	制度に関する調査	調査項目	現状/問題認識	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
1-1	JICAとの連携の効果	JICAと連携することへの「ア」農家の期待は何か	<p>実施団体のアジア学院はこれまでに約30年間の共同で北インド小規模農民への支援を実施中である。この間草の根無償などの支援も受けたこと、今回は、草の根技術協力度により、今回が初めて実施団体はJICAと連携することになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> JICAと連携すること 「ア」農家の懸念は何か 	<ul style="list-style-type: none"> JICAとの連携前と比較し、中央/地方と政との関わりで、違いは生じるか 	<p>【中央政府 (DEA)】 定期的モニタリング報告を求めているものの、事業実施への介入等は考えられない。 【州政府】 →DEAから事前照会があった筈だが、州政府担当者がどのように回答したかは不明。 【現地村落】 →インドには最小行政単位としてPanchayat (自治会) という制度がある。モデル農村におけるパイロット農場の運営については、現地OPNGOがこれらPanchayatと適切な連携 (研修参加者の選定など) を取る必要がある。</p>
		JICAに対する要望はあるか		<ul style="list-style-type: none"> JICAの他スキームとの連携/組み合わせの可能性はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> アジア学院、MGVSの、事業に対するオナーシッピングに変化が生じるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・MGVSは従来から主体的に村落開発に従事しており、JICAとの連携によって「著しい依存性」が発生するとは思われない。 ・ただしMGVSの従来の主たる活動は農業指導より村落開発・衛生・教育などに力が割かれ、農業自体については専門分野ではないことから、アジア学院、"AAI-DU, CONFE"からの継続的技術指導が必要と思われる。 ・MGVSのコーディネーターMr. Sureshは畜産が専門で、アジア学院に2回留学している。
		JICAに対する要望はあるか		<ul style="list-style-type: none"> JICAの他スキームとの連携/組み合わせの可能性はあるか 		<p>現時点ではJICAスキームとの連携予定はなし。しかし、「ア」農業大学は大使館の草の根無償による支援を過去数度受けている。</p>

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

1-2	<p>主体性 (C/P 機関のMGVSのアラハバート農業大学の連携ハラス) 元「ア」大学院講師の牧野一穂氏が「ア」大学院継続教育学部長 (本草の根案件でも現地調査員を兼ねる) が同大学院と連携しながらプロジェクトの農民組織や現地NGOと連携しておおり、本事業開始前から既に信頼関係が存在している。</p>	<p>・ アジア学院と「ア」農大がそれぞれ役割を認識しているか ・ 「ア」農大及び現地NGO、農民団体の間でそれぞれの主体性が保たれているか (重要!) ・ アジア学院と「ア」農大の間のモニタリング体制と予算管理の確認</p>	<p>・ 「ア」大学院はアジア学院とは別個とした現地機関としての意識があるか ・ 日本のプロジェクトとして認識されているか ・ プロジェクトマネージャーは帰国時に活動報告を事業内容に十分な程度、事業内容に関わっているか</p>	<p>「AAI-DU, GCNFE」の調査結果を参照。</p>
1-3	<p>実施体制と治安 現時点では日本人スタッフはサイトに入ることができる。</p>	<p>・ アジア学院案件に係る安全管理基本方針の確認 ・ 現在の治安状況における実施体制とその問題点の確認 ・ 今後の実施体制の方向性の確認</p>	<p>オリスサ州デブティルにおいては山岳少数民族の反政府活動に十分留意する必要がある旨、指導されている。</p>	<p>ムスリー地域については、特段留意すべき治安問題はないものの、山間傾斜地という地理的特殊性の故、自然災害 (土砂崩落等) については常に警戒が必要。</p>

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

プロジェクトに関するモニタリング (PDMの「活動」項目に従って確認調査を行う)		調査のポイント	調査結果
プロジェクト	調査項目	現地調査項目	
2-1	1. Relevance (妥当性) 《現状検証》	<p>出所【提案団体作成による要約書】</p> <p>3. 事業の背景と必要性</p> <p>1. 自由化経済が推し進められる中で、インド農村地帯では、商業的化農業による土壌劣化、小規模農民の経済破綻、また自然環境の悪化が見られる。</p> <p>2. 上記1. の解決策として、持続可能な環境保全型農業システムの普及がインドで重要視されている。</p> <p>3. 上記システムは自由化の波に傷つきやすい小規模農民自立のために、特に必要である。</p> <p>4. アジア学院及とアラハバート農業大学継続教育学部は協力し合いながら30年以上に渡ってインドの農村リダーに持続可能な農業研修を行っているもの、現地での普及行動があまり進展していない。</p> <p>5. 以上のことから、両者の組織と現地NGOが協力し、具体的な農業普及システムの構築をすることは、継続的で且つ効果的な普及活動をする上で必要である。</p> <p>【提案団体作成によるプロジェクト目標 (OUTCOME)】</p> <p>出所【事業提案書 年間スケジュール表】</p> <p>1. 「ア」農業大学継続教育学部を中心に地域循環型有畜複合農業普及システムのモデルが北インドに確立される。</p>	<p>ムスリーのような観光地では、有機農産物等への潜在的ニーズはある。</p> <p>3モデル農村のうち、1番近い村でも、ムスリー市街から車で1時間以上かかる。土砂崩落による車両通行不能のため、現地での普及状況を確認できなかった。</p> <p>MGVSは農業よりも環境・衛生・教育、女性の自立支援等に力を入れてきたNGO。</p>
2-2	2. Effectiveness (有効性) 《予測検証》 検		<p>対象地の問題・受益者のニーズを適切に把握しているか。</p> <p>同地域での他事業との整合性</p> <p>“AAI-DU, CCNFE”の調査結果を参照。</p>

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

プロジェクトに関するモニタリング (PDMの「活動」項目に従って確認調査を行う)		調査のポイント	調査結果
調査項目	現状/問題認識	現地調査項目	
2-3	3. Efficiency (効率性) 《現状(予測)検証》	2. その普及に関わる人材や後継者が養成される。 3. パイロット農場を中心に対象地域のNGOが協力し、北インドの小規模農民のための普及活動(セミナー、個別訪問等)を継続させ、本件終了後も、小規模農民の自立発展を促す。 【提案団体による成果および活動】 出所【事業提案書 年間スケジュールおよびPDM】	アジア学院が過去30年、「ア」農業大学と農村に実施してきた普及活動を確認し、その研修活動で当該事業の性の予測を立てる。
	Output 1. 【草の根農業改良普及員の養成】 1-1 対象地域を訪問しパイロット農場の選定と草の根農業改良普及員それぞれ2名を選ぶ。対象地域の協力者は、対象地域内のNGO組織の代表である。 1-2 草の根農業改良普及員のための基礎的研修プログラムをアラハバト農業大学の有畜複合農業センターで行う。 1-3 海外で草の根農業改良普及員及び研修プログラムに関係するスタッフの研修を行う。 1-4 草の根農業改良普及員に対する専門家、及びパイロット農場担当者は、現場で、モニタリングと同時に助言活動、技術指導を現場でおこなう。	2. 「ア」農大による普及員養成プログラム 3. アラハバトおよびムスリーの農民団体/ローカルNGOによる普及活動	3モデル農村のうち、1番近い村でも、ムスリー市街から車で1時間以上かかる。土砂崩落による車両通行不能のため、現地での普及状況を確認できなかった。 "AAI-DU, CONFED"の調査結果を参照。

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

2	プロジェクトに関するモニタリング (PDM) の「活動」項目に従って確認調査を行う	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
	<p>現状/問題認識</p> <p>1-5 普及員をアラハバート農業大学の複合センターに招き、普及の問題等の解決のための研修、及び活動の中間報告・評価を行う。</p> <p>1-6 普及員、関係スタッフ、専門家を招聘し、プロジェクトの最終評価をアラハバート農業大学の複合農業センターで行う。</p> <p>Output 2. 【草の根農業開発普及員を中心に農民組織またはNGOによる地域循環型有畜複合農業パイロット農場が、アラハバートに一箇所設立され、地元農民組織、またはNGOにより運営される。】</p> <p>2-1 それぞれの対象地域において小規模農民パイロット農場の選定を行う。</p> <p>2-2 パイロット農場の施設、運営、システム、形態について、参加型手法で小規模農民と一緒に話し合い、決める。</p> <p>2-3 小規模農民の参加を促し、地元農民組織によるパイロット農場の構築を行う。</p> <p>2-4 専門家によるパイロット農場の基盤整備、自立的運営に関して助言活動をする。</p> <p>Output 3. 【当パイロット農場を中心に、対象地域内の小規模農民が、当農場の構築過程に参加しながら、地域循環型複合農業を実践的に学ぶ、実践することができるようになる。】</p>	<p>(今回調査対象外)</p> <p>(今回調査対象外)</p>		
		パイロット農場予定地の選定方法の確認		
		(当該地域NGOへの聞き取り調査)		
		(今回調査対象外)		
		アジア学院から派遣されるPM、PC、短期専門家について予測する。	アジア学院から派遣されるPM、PC、短期専門家の活動内容について	AAI-DU, CCNFEの調査結果を参照。

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

2	プロジェクトに関するモニタリング (PDM)の「活動」項目に従って確認調査を行う)	調査のポイント	調査結果
プロジェクト	調査項目	調査のポイント	調査結果
	現状/問題認識 3-1 パイロット農場を中心に、対象地域内の小規模農業者を対象とした地域循環型複合農業のセミナーを行う。毎年、箇所、少なくともそれぞれ50人以上合計200人以上の小規模農業者をセミナーに参加してもらい、地域循環型有畜複合農業の概念、基礎的な技術を学ぶ。 3-2 普及員は、セミナーに参加した小規模農業者に対し実践する意志のある者のために、個別訪問をし、技術指導や助言活動を行う。また、必要に応じて、小規模グループの研修会を適宜行う。 3-3 小規模農民を組織化し、農産加工の実習や、販売等について検討し、農産物の独自な販売についての話し合いをし、その可能性について模索する。 3-4 小規模農民、農業改良普及員、専門家と一緒に普及のシステムや技術について、参加型手法を用いて評価をする。	現地調査項目 (今回調査対象外) (今回調査対象外) 販売 (マーケティング) への取り組みについては要調査。特に既存の販路、販売先については要確認。 (今回調査対象外)	
2-5	4. Impact (インパクト) 《予測検証》	【提案団体による指標の妥当性確認】 プロジェクト目標・活動をもとにインパクト(上位目標)を想定する。 1-1 草の根農業改良普及員による有畜複合農業の継続的な普及活動 1-2 パイロット農場の地元農民組織やNGOによる運営の継続	

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

プロジェクトに関するモニタリング (PDM)の「活動」項目に従って確認調査を行う		調査の結果
調査項目	現状/問題認識	調査のポイント
	<p>2. 地域資源、地域資源を有効利用することにより自然環境が改善される。</p> <p>3. 本プロジェクトを継続するための農業改良普及員、地域農村リーダーや農業後継者が育つ。</p> <p>4. 農業技術、マーケティング改善のための小規模農民の組織が強化され、農業収入が安定する。</p>	
2-4	<p>5. Sustainability (自立発展性) 《予測検証》 *自立発展性 (効果の持続性)を担保するために不可欠な事柄は、プロジェクトの内容によって異なるので、それを見極めてから調査を行う。</p>	<p>2-1 地域資源や地域残渣の有効利用の増加</p> <p>2-2 農業や化学肥料使用量の減少</p> <p>2-3 家畜糞尿の畑への還元増加</p> <p>3-1 プロジェクト継続に関するNGO農業改良普及員や農村リーダーの数。</p> <p>3-2 小規模農民の循環型有畜複合農業実践者の家戸数とその農業面積の増加</p> <p>4. 農業技術、マーケティング改善のための小規模農民の組織が強化され、農業収入が安定する。</p>
	<p>1. 政策・制度面</p> <p>1-2. 有機農法等に関するインド国、各州政府の関連規制、法制度は整備されているか/整備される予定か</p> <p>1-3. 3州のパイロット・サイトを対象とするプロジェクトでは、その後の広がりを支援する取り組みが担保されているか</p> <p>2. 組織・財政面</p> <p>2-1. 事業終了後も、効果をあげていくための活動を実施する組織能力が「ア」農業大学、MJVS, West Utkal Agricultural Centre (WUAC)の3機関にあるか</p>	<p>マーケティング等の項目の細かい見受けられないため、状況について確認する。</p> <p>AAI-DU, CCNFEの調査結果を参照。</p> <p>事業終了後も、必要ない活動や組織が継続しているか。</p>

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」
 2. ムスリー地区ローカルNGO MGVS (ムスリー村落開発協会)

プロジェクトに関するモニタリング (PDM)の「活動」項目に従って確認調査を行う	調査項目	現状/問題認識	現地調査項目	調査のポイント	調査結果
	2-2. プロジェクトを開始する前から、3機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか 2-3. 経常経費を含む予算の確保は行われているか。 3. 技術面	3-1. プロジェクトで用いられる技術移転の手法は受容されるか (技術レベル、社会的・慣習的要因など) 3-2. プロジェクトで導入予定の維持管理計画は妥当か 3-3. 普及のメカニズムがどのようになっているか 3-4. 3機関 (特に「ア」農大) が普及のメカニズムを維持できる可能性は、どの程度あるか 3-5. パイロット・サイトを対象とする案件では、他へ普及できる技術であるか 4. 社会・文化・環境面	・ヒンズー教の影響により、牛糞の利用はインドにおいて極めて難しい旨、アジア学院から指摘されている。		
	4-1. 女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか 4-2. 環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか 5. その他 自立発展性を阻害するその他の要因はあるか	・女性に関し、農業の過剰使用による母体への影響がアジア学院から指摘されている。			→

Introduction of MGVS

The “Mussoorie Gramin Vikas Samiti” (or, in English, The Mussoorie Village Development Committee) is the name given to the action outreach PROGRAMME of the Christian Retreat and Study Centre, Rajpur, Dehradun , Uttranchal. The MGVS Managing Committee is appointed by the Centre’s Board, and its actions, including matters pertaining to budget and funding, are reviewed regularly by the Board’s Executive Committee and are subject to Board approval.

MGVS was started in 1981. During these 23 years MGVS always been engaged in a comprehensive, integrated Community development work in rural areas. Presently MGVS is engaged in a project called “ Community Health and Sustainable Lively Hood through its six programs.

1- Community Health Program 2- Women’s Work Program 3- Community Organization
4- Agriculture & Animal Husbandry 5- School and Literacy Program 6. Appropriate Technology program

About MGVS working area it’s very scattered and hilly. Presently we are working in two-districts Dehra Dun and Tehri Garhwal’s eight Panchayates covering its around 25 villages small and big. The population, age and other data’s of MGVS working areas are given below. Most of the families of these areas are depends on agriculture. Now farmers are growing cash crops such as beans, peas, potato, cabbage and garlic etc. But many farmers realized that if they get more knowledge about sustainable integrated farming they would get more income throughout the year.

Population age and other data's of MGVS working area

Panchayats Name	Village Name	Total Family	Total Population			Under Five Children			5-18 Years	Old Age above 60	Widow	Dai's Birth Attendants
			Male	Female	Total	Total	Imm.	Un Imm.				
Nali	Suvakhofi	11	27	39	65	11	8	3	24	4	2	1
	Jhalki	11	41	27	68	4	4	-	27	3	2	2
	Banpani	5	11	13	24	5	5	-	7	-	1	1
	Nali	15	65	59	124	30	27	3	36	2	2	-
Sarona	Sarona	36	141	130	271	23	23	-	71	20	14	3
	Naya Gaon	9	46	35	81	16	14	2	28	4	1	2
Silla	Buranskhandu	25	80	87	167	19	15	4	57	13	4	4
	Duneta	9	23	27	51	13	10	3	19	2	3	1
	Singhi Dhar	7	27	21	48	3	2	1	12	-	-	2
	Dunnala	9	51	42	93	12	4	8	29	-	1	1
	Chupal	32	105	101	206	28	15	13	66	5	5	1
	Garh	10	49	40	89	5	3	2	43	8	-	3
	Chalchala	26	105	87	192	18	5	13				
ManjGaon	Jari Galla	Not	Yet									
	Silwani	Not	Yet									
	Manjgaon Upper	30	133	130	263	17	17	-	82	7	5	-
	Manjgaon Lower	46	161	136	297	28	28	-	102	23	7	3
	Kilwan Gaon	19	85	83	168	12	12	-	75	9	1	-
Nawa Gaon	Semwal Gaon 1 st	Not	Yet									-
	Nawagaon	33	106	100	206	24	23	1	70	18	1	-
Semwal Gaon -2	Semwal Gaon -2	59	200	173	373	40	40	-	97	28	6	3
Pujar Gaon	Pujar Gaon	Not	Yet									
	Jar Gaon	58	155	151	306	39	37	2	80	30	11	4
Marora	Marora	Not	Yet									
	Lankandai	Not	Yet									
Total		450	1611	1481	3092	347	292	55	925	176	66	31

Some of the areas village survey is going on.

MUSSOORIE GRAMIN VIKAS SAMITI (MGVS)
Tabor West, P.O. Box – 16, Mussoorie (UA) India
Phone: 91-135-2631437, E-mail: mgvs1@vsnl.com

Annual Project Report-2003

The year 2003 was a special year for MGVS as we started to work more consciously towards sustainable achievement in our “ Community Health and Sustainable Lively hood project. Although MGVS always focus on sustainability of our field work in our past years, but since we experienced lack of funding assistance we tried to organized ourselves more effective way towards community development work to achieve sustainable results in long run. Due to this approach we have been success to get three years funding assistance from Tear Australia for MGVS COHSL project. Now it became more challenging task for us. We have tried our best to built a foundation of our sustainable livelihood project during this first year time, through which sustainable results of our activities can be achieved in long run. Through our first year evaluation we can see that we are some how successful in our approach. Here are some highlights of our field activities in year 2003:

Community Health Program:

Traditional Birth Attendants (Dai) training Program: After organizing a successful training workshop for 20 Dais on March 13-14, 2003 at Kaplani, MGVS once again we organized another training workshop for new Dais in new area. On October 23-24, 2003 a two days training workshop was held at village Satyon, This time 21 Dais including 6 VHW from seven villages participated in this workshop. Once again Mrs. Rajkumari Singh of the Garhwal Community Development Welfare Scociety gave her expertise to lead this workshop. The aim of the workshop was to upgrade the knowledge of the local dais so that they can handle the safe delivery and the mortality rate of the mother and child during delivery can be reduced. The topics of the participatory discussion during the workshop was:

How to know that pregnancy is taken place
How to check the fetus position during pregnancy
Position of Uterus
Menstruation
How twins take place
How the sex setting in a child
Late in releasing placenta
Complications during the deliveries, when patients should refer to hospitals

Beside the above points the Dais were also trained in pre and post birth care. After the workshop all Dais received a certificate and a birthing kit.

The MGVS Health team also followed up with some of the Dais who were trained in above workshops, they found that they were using the Dai Kit during the delivery in their village and taking precaution of hygienic methods of delivery. Some Dais referred some complicated cases to the hospitals. The MGVS health team planned to have follow up of meetings with the dais in every three months to discuss their progress and problems as a follow up program.

Health Awareness Program:

Child Festivals:

Six child festivals were held in year 2003. From June to December 2003, three child festivals were held in village Nail, Suvakholi and Ghugupal. The aims of these festivals are, besides the immunization and health awareness program, to promote VHW as a capable leader and a capable village health worker to the village communities. VHW are the one who organized these festivals with the help of their village community, they also invite the Government Health Workers for these Festivals,

It is so encouraging that in all above festivals the government ANM (Auxiliary Nurse Midwife) participated and conducted immunization and did Pre and postnatal checkups. VHW assisted her in all these activities. We are happy to say that a relationship between Government health workers and village health workers is established. It seems that government Health workers are taking interest in these festivals because instead of visiting each family or asking people to bring their children for immunization etc. they are getting children, mothers and villagers in one place which makes their work more easy.

MGVS is now no more providing vaccination services to the villagers, we are trying to get these services from the Government Health department as much as possible. The total Vaccination in year 2003 was given by the government health workers in MGVS working area – BCG –89, DPT/OPV – 190, Measels-68, ANC-37, T.T- 24 and Vitamin A drop – 219.

School Health:

Among 21 Village Health Workers who are under training, 13 have already started to provide health education to the primary and junior high school children in their areas. Every three months the VHW's visit the primary & junior high school and talk about health & hygiene to the children, they are getting good support response and respect from both the teachers and the students. We received feedback from the school teachers that some of the VHW are improving their health talk skills also there is improvement in the school children personal hygiene. Some School teachers are planning to pay VHW a small financial help on her visit to their school for health talk. They will collect this money from the students.

STD and HIV/AIDS Awareness program: MGVS health team organized one day workshop each, with all the Sewing and Knitting classes girls, there were five sewing and knitting centers in which 79 girls were under training mostly young girls 14th to 20 years

age. This workshop was led by a film show on STD - HIV/ AIDS awareness, which is made by Voluntary Health Association of India. After the film show Mrs. Renuka Chand (Nurse) talk about STD and HIV/AIDS infection and precaution.

Village Health Worker Training and Sustainable steps for future:

Village Health Worker training: 21 VHW are still under health training. During training they are performing several responsibilities, such as community health planning with the co-villagers, organizing Child festivals and helping Government ANM in vaccination programs, participating in Government Polio and other health camps program. Besides this some of the sustainable steps taken by MGVS to strengthen village health worker credibility:

1. In health clinics now Village health workers are practicing to diagnose the illness of a patient and prescribing the medicine and after that delivering health talks, all these activities MGVS health workers helping them, each VHW get there turn.
2. Three gram- panchayats Saron, Silla and Nali's VHW are able to built good relation with the Government health workers especially with ANM, as she started to attend their Child festivals and provides health services in it.
3. Some of the VHW continue to participate in Government Plus Polio Camps.
4. In December 2003 Government Health Department organized a Family planning camp in village Satyon. It was a big demand of the VHW in that area, MGVS also pressurized the Health Department in this issue as VHW motivated and had a list of women and men for this camps before hand. There were 27 women and 3 men had their family planning operation in this camp. Six VHW participated in this camp and helped the women after operation.
5. There was a HIV/AIDS awareness camp at Beer Nagar in the month of July organized by the Government health center of Satyon, our VHW participated in this camp and was able to built relation ship with Government health center.
6. In November 2003 Ghugupal area's VHW attended a Health camp organized by the Thathur Primary Health Center, the in charge of the health center welcomed the VHW and explained all about their work with the observation trip to Hospital. They also arranged a 45 minutes lecture for VHW on leprosy, TB, AIDS, Immunization, Family planning and symptoms of disease etc. It was a very fruitful trip for VHW.

Personality Development & Gender Sensitization training Workshop:

A two days training Workshop on Personality Development & Gender Sensitization was held in September 2003 at Satyon Inter Collage. MGVS organized this workshop with the help of a Mussoorie based organization called "Sidh" Society for integrated Development of Himalayas. This training Module was developed by the Sidh Organization for the youth of the Himalayan area between the age group 16-24. The objectives of the workshop were-

- To challenge their existing thought patterns and beliefs so as to make them receptive to new ideas.
- To work on and improve their analytical and decision making skills.
- To encourage them to take leadership role in personal and public life.

Forty – Five boys and girls participated in this workshop and all of them have appreciated this kind of training. We hope to have more training program in future for the youth

Post Panchayati Raj Training:

A Two days training Workshop on Post Panchayati Raj Training was held in 20-21 November 2003 at Bear Nagar. The aim of this workshop was to train and empower the newly elected women Panchayati Raj members (Pradhan, Ward members and Block Level Committee members) about the Panchayat Raj system so that they can take active part in Panchayats.

Once again we took the help of Dehradun based organization called “Rural Litigation and Entitlement Kendra” to run this workshop. Three Panchayati Raj trainer (all women) from Rural Litigation and Entitlement Kendra’s came to help us. There were twenty women participates in this workshop in which five women were newly elected Pradhans, ten elected ward members and two Block Development Committee members. These elected panchayat members were representatives from six Gram Panchayats: Marora, Hatwal Gaon, Semwal Gaon, Manjgaon, Uniyal Gaon and Haweli Gram panchayat.

The First day following issues were discussed:

- 33% reservation seats in three level, District Panchayat, Block and Gram Panchayats for general, scheduled castes and scheduled tribes women.
- Is 29 Departments are under Panchayats or not
- Schemes and Financial help for Panchayats
- Different committee formation and responsibilities

There was good discussion in all above points, and related problems with above issues were also discussed. On second day the main discussion was on schemes. Main points were as follows:

- In schemes, central Government, State Government and Panchayats networking
- The money or funds that comes for any schemes, its selection for the Wards work and amount.
- How to write a proper application
- How to fill the checks
- Gram Panchayats Registers and its works
- The Family register’s importance

In the end all participants appreciated the workshop and realized that it was informative.

Women Groups (Self-help / Saving- Loan):

Five women groups are working nicely to improve the status of the women in their community, they also play a major role in development of their community. The women groups visit Government offices and meet officers and politicians time to time for their village problems. They met several times with Member of Legislative Committee members and Chairman of Mussoorie City Board, they even invited them to their "Women Empowerment Fair" as a chief guest, and always tried to bring their attention to their area problems such as water and electricity. Due to their effort and pressure some of their demands have been approved and the work is in progress such as:

- The electrification work is under progress in Gram panchayats Nali Kala, Silla, Chamasari and Sarona.
- A very long standing demand of the women of village Garh, Buranskhanda, Duneta, Suvakholi and Kaplani of drinking water has been finally approved and a hydro pumping scheme is under construction to provide drinking water in these villages
- A Government primary health center Building is under construction at village Sarona.
- A Government Medical Doctor is posted at PHC center Sarona. He is impressed by MGVS community health program and willing to cooperate with MGVS.
- Three Angan Balwadies (pre school) recently approved in two gram panchayats Silla and Nail, one woman of our Mahila Mandal and one VHW have gotten the responsibility to run these Balwadies, they will get some honorarium for this service from the Government.
- Telephone line in two villages Sarona and Naya Gaon

Women saving & Loan groups details up to March 2004:

	Name of Saving & Loan groups	Total members	Monthly installment Rs.	Total share contribution up to Mar.04	MGVS Share one time	Int. Rate Monthly 2%	Int. earn up to Oct. 04	Starting month
1	Manj Gaon	17	20.00	4420.00	1000.00	2% per month	230.00	April 03
2	Semwal Gaon	18	20.00	4680.00	1000.00	15% of the loan after 6 months	777.00	Jan. 03
3	Nali	15	20.00	3940.00	320.00	2%	572.00	Feb. 03
	Buranskhanda	20	30.00	10170.00	450.00	2%	1160.00	Jan. 03
5	Chalchala	18	100.00	12600.00	Nil	2%	796.00	Sept. 03

- In Manj Gaon and Semwal Gaon's women saving and loan groups we have contributed more than their total first installments because it was very new idea in this area.
- Chalchala women group started second times this saving and loan scheme, this time they didn't ask for MGVS contribution.
- Since June 2003 some new members joined the groups and some left.

Farmer Credits Co-operatives:

	Name of Farmer Credit Union	Total Members	Monthly Installment Rs.	Total share contribution up to Mar. 04	MGVS Share One time Rs.	Int. Rate monthly	Int. earn up To Mar. 04	Starting month
1	Suvakholi	20	100/-	24,600.00	2,000/-	2 %	3,868.00	Feb. 03
2	Ghugupal	27	100/-	18,500.00	2,700/-	3%	2,775.00	Feb. 03
3	Nali (Farmer SHG)	17	5/-	870.00	85/-	-	-	Feb. 03
4	Naya Gaon	14	50.00	5,600.00	700.00	2%	600.00	July 03

* The members of Ghugupal Farmer Credit's are not regular and there was no meeting since November 2003.

Sewing & Knitting Training: There were 79 women in our five different training centers during 2003. The trainee appears in training different- different time of the year, so the completion time of the course for many trainees not similar. During the training the women have learn making petticoat, frock, blouse, Salwar- Kurta , woolen sweaters, socks, caps etc. The details of the sewing and kitting classes during 2003:

Sr. No.	Name of center	Total Trainees In 2003	Trainees completed course 2003	Still in training
1	Sarona	20	9	11
2	Satyon	20	3	17
3	Jhalki	13	4	09
4	Ghugupal	15	15	Center closed
5	Naya Gaon	11	11	Center closed
	Total	79	42	37

- One new sewing and knitting training center will be open in 2004 at Village Marora.
- In Sarona and Jhalki center two ladies who completed the course are helping our trainer in sewing & knitting classes

Carpet Making training: MGVS is running Carpet making training in two places Jhalki and Beer Nagar (Satyon). At Jhalki center this year three women were trained. One lady Nardu Devi from the Jhalki village who already learned and very much interested to get income out of Carpet weaving business. All to gather she made four carpets during 2003 and earned more than Rs. 3000.00. MGVS provided a carpet machine in her house also wool. So whenever she gets free time in her house she spends in weaving carpet. We are encouraging her to buy her own machine and involved her husband in this business like setting the thread on machine, treming and selling which is presently MGVS helping her.

Recently she showed interest to teach her daughter in law and a neighbor at her home so we placed all to gather three machines in her house.

The second Carpet Training center, which was opened in July 2003 with seven trainees, mostly girls, is still working with three trainees. Four girls who learned the basic of carpet weaving have left the center after marriage. We hope to get some other trainees in near future.

Appropriate Technology Program: Under this program MGVS Technical Team was busy in three different project, construction of low cost toilets as a demonstration, drinking pipeline, and construction of rainwater harvesting tank.

Low Cost Toilets: Keeping in mind the sanitation and hygiene problems in this area that causes several illnesses MGVS promoted low cost toilets as a demonstration. Three VHW's Mamta Devi from village Nali, Dil Devi from Village Naya Gaon and Dipa Devi from Semwal Gaon have shown the interest in construction of toilets in their houses they also shared the cost of construction such as collecting stones, digging toilet pit and labor etc. MGVS provided cement, pipes, toilet sheet etc. All toilets are ready to use.

Drinking pipeline: A five hundred meters long drinking pipeline was laid at village lower Manj Gaon. It was a joint effort by the villagers and MGVS. The pipeline starts from a water spring that is above the village. This pipeline contain 410 meters Plastic, PVC pipes and 90 meters Galvanized iron pipes which was provided by the MGVS. The villagers helped to dig trench to buried plastic pipes in the soil also they provided all the labor work, mason and gravel for catchment area. This small pipeline is providing drinking water to seven families in which five families are from lower cast. MGVS technical team did all the technical work in pipeline.

Rainwater Harvesting tank: The MGVS Technical team constructed a rainwater-harvesting tank in village Mondor. Mondor is one of the Semwal Goan settlements in Saklana valley. This is the area for MGVS to demonstrate these plastic-lined, earth excavated tanks, eighteen feet across and ten feet deep, with capacity of 40,000 liters roofed over for protection with corrugated iron sheets. This rainwater-harvesting tank was made for irrigation purpose. The farmers of Saklana valley grow many cash crops, such as peas, beans, carrot and cabbage, irrigation for growing cash crops is one of the big problems in upper part of the valley. The tank is completed and was inaugurated in

August 2003. The villagers provided land for this tank, a supporting wall 20 feet long and six feet high was built by them also sum support in labor work. MGVS provided plastic sheet, cement, tin roof and angel iron for roof and transportation etc.

Community plantation: On September 2003 the women group of Ghugupal organized a community plantation. The member of the farmer group Ghugupal, member of the Panchayat MGVS staff participated in this community plantation work. MGVS gave 100 Oak plants to the women group and another 100 plants were arranged by the women her self. It was a very encouraging event for all of us as community people have taken initiative to plant the trees and protect their forest surrounding them. The plantation was held on the Panchayat land and around the Panchayat building.

Agriculture Joint project : Dr. Teruo Miura former Associate Director of Asian Rural Institute, Japan (From July 2004 he will be successor of Dr. Makino Director and a Dean of College of Continuing and Non-Formal Education, AAIDU, India) proposed a joint project proposal of Asian Rural Institute, Japan to MGVS. The Asian Rural Institute, Japan which is a unique and very effective training program for the developing countries grassroots leaders. Surrender Singh, present coordinator of MGVS trained in this institute in year 1989 and again he attended this program as a training assistant in 1996 for one year.

The proposal's basic objective is to establish three pilot farms in MGVS working area to enhance sustainable Integrated Farming in this region.

In February this year Dr. Miura accompany with two Japanese experts (Farmers) visited MGVS project and had meetings with group of farmers at villages Ghugupal and Marora. The objective of the meetings was to know the perception of the farmers' problems needs and wants. A participatory exercise was done to find out the problems and needs of the farmers. It was interesting to know that farmers wanted to increase their farming knowledge. It was very good opportunity for both, the local farmers and the Japanese farmers to share their experience.

Workshop on Sustainable Integrated Farming: follow-up of these village meetings of the joint project efforts the college of Continuing and Non-formal education of AAI- Conducted a Workshop on Sustainable Integrated farming from February 16 to 24, 2004. Two staff, Surrender Singh (Coordinator) and Sushil Singh (Appropriate technologist) accompanied with two women Urmila Joshi from village Buranskhanda and Susa Devi from village Garh and four farmers Kundan Singh (village- Satyon), Gopal Singh (Village- Marora) Ambika prasad (Ghugupal) and Sundar Lal (Sarona) attended this Workshop. The aim of this workshop was to create awareness and to enable the participants to understand the fundamentals of sustainable agriculture. There were 50 delegates from different NGO's of the four states, Jharkhand, Orissa, Uttranchal and Allahabad, Utterpradesh.

The participants had some very informative time of lectures delivered by experienced person who are practically involved in sustainable integrated farming. Some very

interesting practical for groups with hands- on experience like Bokashi (fermented chicken manure), Fermented fruit juice, Wood charcoal, Wood vinegar and Rice husk charcoal and even some food processing activities were of great benefit.

School and Literacy Program: Presently MGVS is running two schools, one primary and one middle school. The MGVS Primary School, which is in village Donk is continue to provide education to the poor and needy children. At present there are 42 children in the school. Twelve students of the class 5th will have their Board examination in month of April.

The MGVS Kaplani Middle School, which is only three years old have shown remarkable improvement in the students, the villagers around the school appreciates our teachers commitment in the school. The Kaplani School students also have opportunity to interact with other school student such as Woodstock School who visits Kaplani school quit often. Presently 28 students are studying in the school. Seven students who are in class 8th will appear for Board examination in month of April 2004.

Visitors to MGVS:

November 2003: Ms. Manjari Mehta, Lecturer
Massachusetts Institute of Technology
Room 16-249, Cambridge, MA 02139, USA

November 2003 Dr. Marion Nachshon
Los Angeles, California

February 2003 Dr. Teruo Miura, 442-1, Tsukinokizawa,
Nishinasuno, Tochigi- 329-270, Japan
& Accompany with Mr. J. Takahasi, Mr. Shito Shindo

February 2003 Mr. A. K. Mishra, Coordinator
College of Continuing and Non- Formal Education,
AAI-DU, Allahabad U.P. 211007

Funding: MGVS is grateful to the following donors for grants and donation given to us from April 2003 to March 2004:

	Rupes
1. Presbyterian Church, USA	772,051.00
2. First Presbyterian Church, Stroudsburg, USA	94,394.00
3. Winterline Foundation, USA	102,744.00
4. TEAR Australia	1,008,501.00
5. First Congregational Church, USA	56,231.00
6. Ms. Kaith I. Brown, USA	1,868.00

7. Mrs. & Mr. T. Z. Chu, USA	34,253.00
8. Ms. Anne Chapman, USA	754.00
9. Mr. Glen Conrad, USA	1,891.00
10. Mr. Steven C. Smith, USA	1,968.00
11. Mr. Amol Chaudhari, USA	1,883.00
12. Mr. Gerald & Margori F., USA	22,041.00
13. Mr. S. L Brown & W. Scott., USA	4,408.00
14. Mr. David Scott., USA	750.00
15. Mr. Robert & Ms. Susan Stewart, USA	751.00
16. Ms. Thomas L. Nicloson, USA	4,128.00
17. Mr. Harry J. Lox, USA	744.00
18. Mr. Mathew M. S., USA	17,656.00
19. Ms. Rubby and Mr. Frank, USA	1,78,510.00

Total Receipts Rs.	<u>2,305,526.00</u>

Local Currency Donations:

1. Mr. Steve Alter	Rs. 5,000.00
2. Mr. R. C. Alter	Rs. 5,000.00
3. Mr. & Mrs. Martin Ahrens,	Rs. 2,300.00
4. Mr. Ashok Chaterjee	<u>Rs. 2,000.00</u>
	<u>14,300.00</u>
Total Rupees	

The Coordinator of MGVS is grateful to the MGVS staff the MGVS Managing Committee Chairman and Members and the CRSC Board and Executive and to the Director and staff of the Rajpur center for their continued support and cooperation.

Respectfully submitted,

Surender Singh
MGVS Coordinator

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」および「調査結果」

◆ 対インド事務所／対大使館

意見交換項目	現地意見交換項目	意見交換のポイント	意見交換結果
<p>インド事務所の草の根技術協力事業支援に係る意見交換</p>	<p>現状／問題認識 イン도의 JICA 事業における草の根技術協力の位置づけを確認する必要がある。</p>	<p>現地意見交換項目 ・ JICA 東京による平成16年度草の根技術協力事業の協力の方向性について説明 ・ インド事務所による草の根技術協力事業に対する理由の説明</p>	<p>【インド事務所】 ・ 膨大な貧困層が存在するインドにおいて、NGOとの連携事業の意義は大きい。 ・ インド政府の認証（クリアランス）は非常に時間がかかるとのこと。基本的に外国の援助に対し、徹底した照会を行うっていく方針は今後も変わらない模様。同政府は「人間の安全保障」という観点による援助は受け入れない方針（人権外交による国政干渉を危惧している模様）。 【大使館】 ・ 「人間の安全保障」を草の根無償の名称に冠するようになったため、インド政府が態度を硬化させ、昨年度から従来実施していた草の根無償が来年度からなくなっている。そのため、アラハバト農業大学から申請のあった草の根無償案件も承認できない状況になっている。 ・ インド政府援助窓口（財務省経済局）は外国の援助資金の国内へのフローについて厳しく確認しており、草の根無償の申請団体・内容についても逐次確認している。</p>
		<p>・ 個別援助実施計画との整合性（NGOベースでの活動支援は重視される） ・ インド政府のNGO支援方針との整合性</p>	<p>【大使館】 ・ 調査団が訪問しなかったオリスサ州では一部山岳少数民族が反政府活動を展開しており、また電気などの社会インフラが整備されていないことから、活動には十分に注意して欲しい旨、アドバイスがあった。</p>
		<p>・ 治安状況に対応したNGO活動可能範囲</p>	

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」

◆ 対インド事務所／対大使館

意見交換項目		現状／問題認識	現地意見交換項目	意見交換のポイント	意見交換結果
2	NGO-JICA ジャパンデスク (NJJD：今年度設置予定) に係る意見交換			・インドで活動している本邦NGOの現状やニーズ把握	<p>・インド国内のNGOからの支援要請は日増しに多くあり、一方、日本のNGOでもインドで活動中、あるいは活動したいと考えている団体も多数ある。9月にNGO-JICA ジャパンデスク (NJJD) をインド事務所内に開設することもあり、同事務所としては両国NGOのマッチングを行っていききたい。</p>
3	NGO-JICA ジャパンデスク (NJJD) の活動一般に係る意見交換	JICA内部の市民間協力促進に係ること、及びNJJDの役割・支援内容の明確化する必要がある。		・ソムニード案件 (草バト)、AVC案件 (ミニバト) 等の状況確認	
4	今後の3者 (本邦NGO／JICA／インドローカルNGO等) 連携のあり方に係る意見交換	同上	・現在の他スキームとの連携の存在の確認	・INGO等のインドにおける活動内容について情報を入手し、インドにおける今後のJICA草の根技協等について反映させる。	

インド国草の根技術協力事業環境整備調査団 「調査項目」 および 「調査結果」

◆ 財務省経済局 (Department of Economic Affairs (DEA), Ministry of Finance)

意見交換項目	現状/問題認識	現地意見交換項目	意見交換のポイント	意見交換結果
1 草の根技術協力事業実施に係る意見交換	DEAの対外国NGO事業への対応方針、なかでもJICA草の根技術協力事業の位置づけを確認する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> JICA東京による平成16年度草の根技術協力事業の方向性の説明 DEAIによる草の根技術協力事業に対する姿勢の説明 DEA、JICA双方による今後の草の根技術協力事業の方向性の確認 JICAによる本邦NGOの活動、特にJICAとの連携事業を行うNGOに対するDEAIの理解を依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> 個別援助実施計画との整合性 (NGOベースでの活動支援は重視されている) DEAIに対し採択内定案件実施のために速やかな手続きを依頼する 登録事務手続きの速やかな実施の依頼 	<ul style="list-style-type: none"> JPP (JICA Partnership Program) については一定の理解を示したが同時に定期的なモニタリング報告を求めると述べた。なお、DEAIはインド側CPRのFCR (Foreign Contribution Registration) : 外国援助登録)の取得に固執するところがあり、本プロジェクトのCPR機能について、すでにFCRの取得が確認されたCONFE以外のMGVS (Mussoorie Gramin Vikash Samiti)、オリッサ州NGO (West Utkal Agricultural Centre) のFCRの取得について確認を求められたが、アジア学院の主たるカウンタパートナーがアラハバート農業大学であり、残りの2NGOについてはアジア学院の直接のCPとはしていないことを説明し、2NGOのFCRIについては特に必要がないことを確認した。 【インド事務所】 草の根技術協に限らず、事業実施にあたってはインド政府内 (関係各省庁 (財務省・外務省・内務省および州政府) の了承手続き (クリアランス) が終了する必要があるが、審査書類提出後、半年程度を見込むことを理解してもらいたい旨、発言があった。
2 外国 (本邦) NGOの活動に係る意見交換	インドにおける外国NGOの活動には、NGO登録 (もしくは現地NGOの登録) 及び現地NGOとの連携が必須となっている。			

7. 収集資料一覧

アラハバート農業大学継続教育学部 (“AAI=DU, CCNFE”) 関連資料

- 1) Annual Report of College of Continuing and Non-Formal Education, Allahabad Agricultural Institute-Deemed University, July 2003 - July 2004
- 2) SPECIAL COURSE IN GENERAL AGRICULTURE FOR RURAL LEADERS
- 3) Non-Formal Education Centre (小冊子)
- 4) Selection of Village to Implement JICA Project Activities: N.F.E.C., AAI-DU 211007 22-7-04

ムスリー村落開発協会 (MGVS) 関連資料

- 1) Introduction of MGVS
- 2) MUSSOORIE GRAMIN VIKAS SAMITI (MGVS) Annual Project Report-2003
- 3) WATER FOR PABOLEE: Stories about People and Development in the Himalayas, Robert C. Alter, 2001, Orient Longman

アガ・カーン財団 関連資料

- 1) AKDN: AGA KHAN DEVELOPMENT NETWORK, ECONOMIC DEVELOPMENT ・ SOCIAL DEVELOPMENT ・ CULTURE
- 2) AGA KHAN TRUST FOR CULTURE: THE CULTURAL AGENCY OF THE AGA KHAN DEVELOPMENT NETWORK
Enriching Experiences: Successful Practices in Community-based Natural
- 3) Resources Management, Volume II Brief 1, July 2001, Generating Incomes through Organic Composting

8. 面談者名簿

JICA インド事務所

酒井 利文	役職 所長
伊藤 耕三	次長
飯島 大輔	担当職員
松元 隆	副担当職員
山崎 幸	企画調査員 (社会セクター/NGO 関連事業)
Mr. R. Dinakar	Senior Programme Officer

日本国大使館

城戸 賛 (きど あきら)	2 等書記官
---------------	--------

インド政府財務省経済局 Department of Economic Affairs (DEA), Ministry of Finance & Company Affairs

Mr. V. Vum Lun Mang	Deputy Secretary (Japan)
Ms. Sreyasi Chaudhuri	Undersecretary (Japan)

準学校法人アジア学院 (インド駐在)

三浦 照男	プロジェクトマネジャー
牧野 一穂	現地調整員 (兼アラハバート農業大学継続教育 学部長)
川口 景子	経理担当スタッフ (アジア学院卒業生)

アラハバート農業大学継続教育学部

Dr. P. Dickson	Coordinator, Dept. of Agriculture and Rural Development (DARD)
Mr. Alfred Arun Kumar	Training and Dorm Life (DARD)
Mr. A.K. Mishra	Agriculture Coordinator, Dept. of Rural Community Development
Mrs. Geeta Pandey	Education Coordinator, Dept. of Rural Community Development
Mr. Varghese Mathew	Coordinator, Dept. of Environment & Community Health

ムスリー村落開発協会 (MGVS)

Mr. Surender Singh . MGVS Coordinator

Aga Khan Foundation

Ms. Nemat Hajeerbhoy Programme Manager, Health

Dr. Somnath Bandyopadhyay Programme Officer

JICA インド事務所

役職

酒井 利文

所長

伊藤 耕三

次長

飯島 大輔

担当職員

松元 隆

副担当職員

山崎 幸

企画調査員 (社会セクター/NGO 関連事業)

Mr. R. Dinakar

Senior Programme Officer

日本国大使館

城戸 賛 (きど あきら) 2等書記官

インド政府財務省経済局 Department of Economic Affairs (DEA), Ministry of Finance & Company Affairs

Mr. V. Vum Lun Mang Deputy Secretary (Japan)

Ms. Sreyasi Chaudhuri Undersecretary (Japan)

準学校法人アジア学院 (インド駐在)

三浦 照男 プロジェクトマネジャー

牧野 一穂 現地調整員 (兼アラハバート農業大学継続教育
学部長)

川口 景子 経理担当スタッフ (アジア学院卒業生)

アラハバート農業大学継続教育学部

Dr. P. Dickson Coordinator, Dept. of Agriculture and Rural
Development (DARD)

Mr. Alfred Arun Kumar Training and Dorm Life (DARD)

Mr. A.K. Mishra Agriculture Coordinator, Dept. of Rural
Community Development

Mrs. Geeta Pandey Education Coordinator, Dept. of Rural
Community Development

Mr. Varghese Mathew Coordinator, Dept. of Environment &
Community Health

ムスリー村落開発協会 (MGVS)

Mr. Surender Singh

MGVS Coordinator

Aga Khan Foundation

Ms. Nemat Hajeebhoy

Programme Manager, Health

Dr. Somnath Bandyopadhyay

Programme Officer

